

四階楼の施主 小方謙九郎 (1835-1913)



小方謙九郎は、都濃郡栗屋村（現在の周南市栗屋）の庄屋温品良左衛門の二男として生まれ、25歳のとき、室津村の小方家の養子となりました。幕末期には高杉晋作が結成した奇兵隊に入隊して文久3年(1863)・元治元年(1864)の馬関攘夷戦に参戦、第二奇兵隊の創設にあたっては参謀となり、四境戦争(第二次長州征伐)では大島口の戦いに活躍しました。維新後は室津に帰り、酒造店や汽船宿などを営む一方、室津村の第1回村会議員を務めるなど、郷土の発展に尽くしました。

なお謙九郎の養父にあたる小方市右衛門は、吉田松陰や僧月性らと親交があった勤王の士でした。また、わが国にスキーを紹介し、民間航空の発展に尽くした長岡外史(1858~1933)は、謙九郎の実子にあたります。



上関町 郷土史学習館

上関町郷土史学習館は、四階楼の保存修復工事に伴い付設された2階建ての学習施設です。館内では、四階楼に関わる資料の展示のほか、瀬戸内海の海上交通の要衝として栄えた上関町の歴史を、パネルや映像で紹介しています。



交通のご案内

- 山陽自動車道
熊毛・玖珂ICより車で50分
- バス
柳井ー室津(50分)
- 定期船
柳井港ー室津ー祝島(1日3便)
上関ー室津ー八島(1日3便)

ご利用案内

- 開館時間 10:00~17:00
- 入館時間 16:30まで
- 休館日 毎週月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日
年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 無料

四階楼 上関町郷土史学習館

〒742-1403 山口県熊毛郡上関町大字室津 868-1
 TEL/FAX 0820-62-6040
 お問い合わせ：上関町教育委員会 TEL0820-62-0069

国指定重要文化財(平成17年12月27日指定)

四階楼

上関町郷土史学習館



山口県熊毛郡上関町

文明開化の香りと港町浪漫



4階 鳳凰の鍍絵とステンドグラス

小方謙九郎が建てた四階楼は、外観は漆喰の白壁、4階の窓にはフランス製ステンドグラスの両開き窓、内外に凝った鍍絵の装飾が施されるなど、そのモダンで豪華な姿は、多くの人を魅了しました。



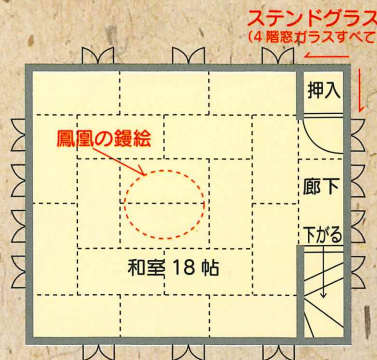
3階 唐獅子牡丹の鍍絵



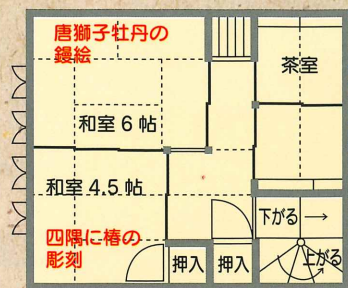
3階 茶室



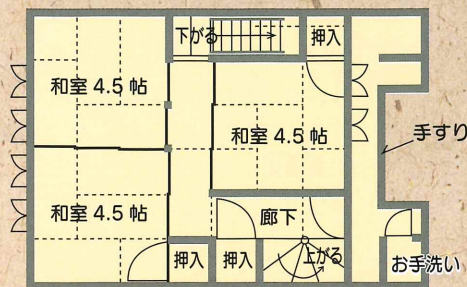
1階 菊水紋の鍍絵



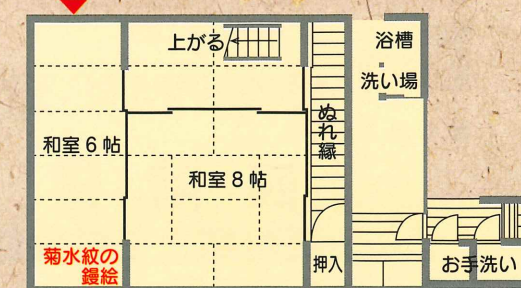
4階



3階



2階



1階

四階楼は、古代から近代にかけて、瀬戸内海の海上交通の要衝として栄えた山口県東南部の室津半島の先端部にあり、幕末に活躍した第二奇兵隊参謀のさんぼう おがたけんくろう小方謙九郎が明治12年(1879)に建築した擬洋風木造四階建の建造物である。

建造費は当時の金額で3千円、大工棟梁は地元、室津村(現在の上関町室津)の吉崎治兵衛じひょうえである。

四階楼はその奇抜な和洋折衷様式のデザインから、文明開化の地方への普及がうかがえ、こうした高層建築が、当時広島や大阪などにも建てられたという記録が残っているが、現存しているのは四階楼のみである。

この建物は、はり ま梁間5.84m、けたゆき桁行6.72m、よせむねづくり棟高11.4m、さんがわらぶき寄棟造、きりづまづくり棧瓦葺の木造四階建て、一階正面に玄関庇を付け、背面南北両端にベランダ付の切妻造、つのや棧瓦葺、二階建の角屋を突き出す。また、南の角屋一階背面に、切妻造、棧瓦葺の便所を附属する。

外部は、おおかべづくりしっくいぬり大壁造漆喰塗で、じゃばら蛇腹を回し、のきひさし軒庇に垂れ壁を付け、隅にコーナーストーン型を漆喰でつくる。また、四階四隅の円柱に昇り龍、二階軒庇垂れ壁に牡丹など鍍絵を施す。さらに、内部の壁にきくすい からじしほたん菊水や唐獅子牡丹、四階天井中央にもほうおう鳳凰の鍍絵を施す。四階四方の窓にはフランス製のステンドグラスが短冊状や三角状に入っている。

四階楼は、のきだか軒高9.7mに四層を収めた階層構成や廻り階段を導入した平面構成、要所に奇想性に富んだ鍍絵を配した細部などに擬洋風の特徴がよく示されている。

建設当初は「四階楼」と称され、きょうおう店舗兼餐応のため利用された。その後、大正14年には旅館「四階屋」となり、昭和32年から平成3年までは旅館「しかいそう四海荘」として利用された。平成3年に上関町所有(佐々木清文氏寄贈)となり平成5年5月14日に山口県指定有形文化財に指定された。それ以降は「四階楼」と称し、同町教育委員会が施設管理を行っていたが、建物の倒壊の恐れがでたため、平成10から12年度にかけて保存修復工事が実施され、平成17年12月27日に国の重要文化財に指定された。